

勇者と魔王

中野
劇団

勇者と魔王

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

勇者

魔王

店員

居酒屋。RPGの勇者そのものの格好をした男が席についている。

勇者 (店の入口に向かい) こっちこっち。

魔王の格好をした男が勇者の席へ来る。

魔王 すいませんすいません遅くなりました。

勇者 まま。

席につく魔王。

魔王 だいぶ待ったんちやいます？

勇者 いやいや、今来たところ。最近、忙しの？

魔王 いやあもう、忙しい言うても、無駄にバタバタしてるだけで。

勇者 そっか。

魔王 急に寒くなりましたね。

勇者 昼間はえらい暑かったのにな。あ、来た来た。

店員、徳利とお猪口を持って来る。

店員 へい、温癒です。お料理何にしやしょ。

勇者 今日、何入ってる？

店員 今日は、ユニコーンの子供が入ってまき。刺身でいつときやすか？

勇者 いったこか。どんな味？

店員 概ね馬刺です。

魔王 後、大王イカの煮っ転がし。マトンゴと湯葉のサラダと。

勇者 ヒドラのカリカリ焼き。

店員 タレと塩がありますけど。

勇者 ほなタレで。取り敢えずそれで。

店員 あいよ。

勇者 兄ちゃん、あと、ここってカード使える？

店員 使えますよ。

店員去る。酒を注ぎ合うを持つ二人。

勇者 まあ、取り敢えずはい。お疲れさん。

魔王 お疲れ様です。

乾杯して飲む。

勇者 くう。

魔王 っああああ。

勇者 会議？

魔王 ええ。ホンマもう嫌になりますわ。僕のね、すぐ下の四天王のひとりで、ドモルっておるでしょ。

勇者 ドモル？

魔王 ほらあのー、こないだ、デメテリア城行ったとき、おったでしょ。あの、色の青い。

勇者 ああ、はいはいはいはい。あの、エコーかかったみたいなの。

魔王 ええ。顔が蠅の。それがね、僕の知らん所で勝手に自分の住んでる塔を増築するという計画進めとったんですよ。

勇者 あらら。

魔王 それでどういうことやねんって話になって。んなもん、今でも空の宝箱しか置いてないようなフロアあるのにやなー、増築するメリットあるんかいって。ほんでさっきまで幹部会議でやりあってたんすわ。

勇者 はあ。

魔王 ドモルは「けどそれは譲れないです」とか言うて。あほちゃうか。何が譲られへ

んねんって。こっちがおまえない知恵絞って中間切ったり、採算取れてへん洞窟閉鎖してもそんなもん意味ないやんけって。

勇者 大きい所は大きい所なりの問題があるんやな。

魔王 何やかんやとねえ。

勇者 そのドモルって子に言うといてな。目え見て喋れって。

魔王 ああ、はい。何か目逸らしますよね。……せやけど、勇者はんどこはええですよね。自由で。

勇者 何言うてんねん。今の時代、あかんで。うちみたいなもの、流行らんし。何処も金貸してくれへんし。首回らんて。

店員登場。

店員 ヒドラのカリカリ焼きです。カリカリですので気をつけて下さい。

勇者 あい。

店員去る。

勇者 なあなあなあ、四天王でさ、髪の毛長い子おるやん。

魔王 ああ、ロレッツですか？

勇者 ロレッツ？ って言うんかな？ あの子可愛いな。

魔王 ああ、見た目はね。

勇者 え、何？ 性格悪いん？

魔王 空気読めないんですよ。

勇者 ああ、そんな感じやな。

魔王 他人に厳しいしね。で、自分の非は認めへんし。注意したら泣くし。

勇者 はあ。そら嫌やなあ。……男おんの？

魔王 せやからあの子がドモルと付き合ってるんですわ。

勇者 そうかいな。何や、がっかりやな。チェック入れてたのになー。あの八重歯？ 牙？

八重歯？

魔王 尤も、女の子の方は冷めてもうてるいう噂ですけどね。

勇者　へえ。あの子真ん中の目だけ一重やねん。

魔王　よう見てますねえ。で、勇者はんとこは最近どうなんです？

勇者　なかなかや。うち古いのばっかしやから、五人横に並んだら、動き鈍なるし。最近は勧誘もしくいし。勇者や言うたらひくもん。……最近せやけどけつたいな職業増えとんなあ。あの一、何？ 召喚士、いうの？ 今の時代、必要なやな。

魔王　今、何処でもいますね。最初の頃いましてしたよね。

勇者　なあ。うちも春に一人入れたんやん。やっぱおった方がええんちゃうかって話になつて。せやけど俺ら年やから、んな召喚とか言われてもわっからへんやん。最近のは言うことはいっちょまえなんやけど。今時っていうんかな。ちよつと注意したらすぐ顔に出るし。

魔王　何処も一緒ですな。

勇者　召喚獣かて呼んだら呼びっぱなしやし。魔力かてようさん使うから、ちよつと戦つたらすぐ休ませてくれいうて。昔やったら、町の外出たら一晩二晩戻らんのは当たり前やったのにな。

魔王　ていうか、昔は夜自体なかったですしね。

勇者　なあ。あれ、いつからや、夜って。

魔王　まあでもええ戦力になってるんですよ。召喚士。

勇者　ちやうねん、辞めよったんや。引き継ぎもせんと、召喚王になりたいんです言つて。
なれるか！

魔王　それ、あのピエールいう子ちやいます？

勇者　知ってる？

魔王　先週うち来て、働きたいて。

勇者　ホンマかいな。ほんで入れたん？

魔王　いえいえいえ、落としましたよ面接で。うち基本的に魔族だけやから。

勇者　何がしたいんやろな。

店員登場。

店員　ユニコーンの刺身です。

店員去る。

勇者 俺も、来年四十やや。

魔王 ほう。

勇者 四十で勇者もキツイで。いつまでできるんやろね。

魔王 勇者はなんて、何で勇者になろうと思っただんですか？

勇者 何でやろうな。

魔王 親御さんもせやったとか？

勇者 いやいや。普通の人や。普通でもないけど。パパラの町の外れに遺跡があるんやんか。

そこに伝説の秘宝が眠ってて、それ探しに来た冒険者らにな、遺跡の情報を教えるというのが仕事やってん。

魔王 その宝って褒め殺しの剣？

勇者 知ってる？

魔王 あれ五年位前に見つかったんぢやいましたっけ？

せやねん。ほんでそれ以来仕事なくして、すっかり呆けてもうてやな。今は町の中うろーろうろーろして、同じことばーっかり喋ってるわ。ようこそパパラ

の町へ。ようこそ。パラの町へ。

魔王 何処の町にもそういう人ひとりはいますよね。

勇者 みんな、仕事なくして呆けてもうたんや。

魔王 人間呆けたら終わりですねえ。

勇者 自分、人間ちやうやん。

問。

勇者 資格でも取ろっかな。宅建とか。

魔王 宅建ですか。宅建持ってる勇者って聞いたことないですわ。

勇者 だからええかなくて思っつて。ホンマはな。新しい魔法でも覚えよっかな思っつて、いろいろ頑張っつてんけど、何か人と違っつ魔法しか覚えられへんし。潰しきかへんわ。

魔王 魔法ねえ。

勇者 そこいくと自分はええよな。

魔王 僕ね、ホンマはローキックが得意なんですよ。

勇者 そうなん？

魔王

ローキックだけで、大概勝てるんですよ。ホンマはね。せやけど、昔実戦で使ったら、周りの奴ひいてもうてね。

勇者

ああ。

魔王

陰で、「それは違うやろ」みたいに言われて。魔王や言うてるのに、魔法使わんとローキックかって。こっちは命がけで戦ってるのに。そんな言い方。

勇者

なあ。命賭けて戦って死んで、魔法で生き返らされか思ったらまた戦いに出發して。何がファンタジーやちゅうねん！

魔王

まあ、ぐっといって下さい。

勇者

飲も。今日は飲も。

二人、飲み続ける。終わり。